

## ■ 本文

熊谷、「あはれ、大將軍とこそ見参らせ候へ〔①〕。まさなうも敵にうしろを見せさせ給ふものかな。かへさせ給へ。」と、扇をあげてまねきければ、招かれてとつてかへす。

渚にうちあがらんとするところに、おしならべてむずと組んでどうど落ち、とつておさへて首をかかんと、内甲をおしあふのけて見ければ、年十六七ばかりなるが、薄化粧して、かね黒なり。わが子の小次郎がよはひほどにて、容顔まことに美麗なりければ、いづくに刀を立つべしともおぼえず。

「そもそもいかなる人にてましまし候ふぞ。名のらせ給へ、助け参らせん。」と申せば、「汝はたそ〔②〕。」ととひ給ふ。「物その者で候はねども、武蔵の国の住人、熊谷次郎直実。」と名のり申す。

熊谷、「あはれ、助けたてまつらばや〔③〕。」とおもひて、うしろをきつとみければ、土肥・梶原五十騎ばかりで続いたり。熊谷涙をおさへて申しけるは、「助けまゐらせんとは存じ候へども、味方の軍兵雲霞のごとく候ふ。よもおのがれ参らせ候はじ。人手にかけ参らせんより、同じくは直実が手にかけ参らせて、後の御孝養をこそ仕り候はめ〔④〕。」と申しければ、「ただとくとく首をとれ。」とぞのたまひける。

熊谷あまりにいとほしくて、いづくに刀を立つべしともおぼえず、目もくれ心も消えはてて、前後不覚におぼえけれども、さてしもあるべきことならねば、泣く泣く首をぞかいてんげる〔⑤〕。

「あはれ、弓矢とる身ほど口惜しかりけるものはなし〔⑥〕。武芸の家に生まれずは、なにとてかかるうき目をばみるべき。なさけなうも討ちたてまつるものかな。」とかきくどき、袖を顔におしあててさめざめとぞ泣きゐたる。

## ■ 設問 (全21問)

- 傍線部①「見参らせ候へ」には敬語が二つ含まれている。「参らせ」「候へ」それぞれの敬語の種類を答え、あわせて「誰の、誰に対する敬意」かを答えなさい。
- 本文中「まさなうも敵にうしろを見せさせ給ふものかな」を現代語訳しなさい。
- 本文中「見せさせ給ふ」「かへさせ給へ」に用いられている「させ給ふ」は、どの敬語にあたるか(種類)を答え、あわせて「誰から誰への敬意」かを答えなさい。
- 本文中「薄化粧して、かね黒なり」とあるが、この描写から敦盛がどのような人物(身分・育ち)であるとわかるか、簡潔に説明しなさい。
- 本文中「容顔まことに美麗なりければ」を現代語訳しなさい。
- 本文中の傍線部「いづくに刀を立つべしともおぼえず」を現代語訳しなさい。
- 直実が「いづくに刀を立つべしともおぼえず」(どこに刀を刺してよいかも分からない)という気持ちになったのはなぜか。組み伏せた敦盛の様子に注目し、本文の語句を用いて説明しなさい。
- 本文中「助け参らせん」「よもおのがれ参らせ候はじ」に共通して用いられている「参らす(参らせ)」の敬語の種類を答えなさい。

9. 傍線部②「汝はたそ」を現代語訳しなさい。また、この言葉を発したのは熊谷・敦盛のどちらか答えなさい。
10. 傍線部③「あはれ、助けたてまつらばや」を現代語訳しなさい。
11. 傍線部③の「ばや」の文法的意味（用法）を答えなさい。また、これと同じ「ばや」を含む一文をふまえ、ここに表れている熊谷直実の心情を簡潔に説明しなさい。
12. 傍線部④「人手にかけ参らせんより、同じくは直実が手にかけ参らせて、後の御孝養をこそ仕り候はめ」を現代語訳しなさい。
13. 本文中「ただとくとく首をとれ」とあるが、(a)この言葉を発したのは熊谷・敦盛のどちらか答え、(b)現代語訳しなさい。
14. 本文末尾「とぞのたまひける」について、(a)係助詞と、それを受けて結ばれている語の活用形（結びの活用形）を答え、(b)「のたまふ」の敬語の種類と、その動作の主語（誰の動作か）を答えなさい。
15. 本文中「熊谷あまりにいとほしくて」の「いとほし」の、ここでの意味を答えなさい。現代語の「いとおいしい（かわいい）」とは意味がずれる点に注意して説明すること。
16. 傍線部⑤「泣く泣く首をぞかいてんげる」について、(a)主語にあたる人物を本文中の語で答え、(b)「ぞ……ける（げる）」がつくる文法上のきまりの名称を答えなさい。
17. 傍線部⑥「あはれ、弓矢とる身ほど口惜しかりけるものはなし」とあるが、直実はこの一件をきっかけにのちにどのような行動をとることになるか。本文全体から読み取れる直実の心情（無常観）にふれて説明しなさい。
18. 傍線部⑥「あはれ、弓矢とる身ほど口惜しかりけるものはなし」を現代語訳しなさい。
19. 本文中「武芸の家に生まれずは、なにとてかかるうき目をばみるべき」という直実の嘆きをふまえ、この章段に描かれている主題（武士の生き方についての作者のもの見方）を、「無常」の語を用いて説明しなさい。
20. 本文末尾「袖を顔におしあててさめざめとぞ泣きみたる」の「さめざめと」、および直前の「かきくどき」の意味をそれぞれ答えなさい。
21. 【文学史】平家物語について、(a)このような戦（いくさ）を中心に描いた物語のジャンル名、(b)平家物語の根底に流れている、世のはかなさをとらえる仏教的なもの見方を表す語、をそれぞれ漢字で答えなさい。